

校内クラウドに進路指導室コーナーを開設 進路に関する資料がどこからでも閲覧可能に

三重総合高校（大分・県立）

2006年、普通科高校、農業高校、工業高校、商業高校の4校を統合して誕生したのが大分県立三重総合高校。大分県で初めての総合選択制高校で、普通科、生物環境科、メディア科学科を設置している。メディア科学科を中心にICT教育を推進。反転授業なども行う先進校として県内でも注目される存在だ。

紙で残されている書類をPDFにして保存・公開

大分県立の高校には、県が設置した大分教育ネットワークからパブリッククラウド（Google Apps）を利用する校務支援システムがある。「三重総合クラウド」は、これまではメディア科学科の生徒を中心に授業で活用されてきた。具体的にはクラウド内に授業の教材などを置き、生徒は支給されているiPadを使い専用IDを使ってアクセスする。

このクラウドの中に昨年開設されたのが進路指導室からの情報提供コーナー「三総魂」。中心となって運営している菅

淳司先生は開設の理由をこう語る。「進路指導室は卒業生による受験報告書の

ような生きた情報の宝庫。しかし、部屋をたずねてわざわざファイルから探し出すという手間がかかるため、十分な情報活用がされていませんでした」。そこで、受験報告書や教員による企業訪問報告書など紙で残されていたこれまでの報告書類をPDFファイルで保存し、生徒が家庭のPCやスマホで取り出せるようにしたのだ。「報告書も受験が決まれば生徒は見に来ますが、その前の選ぶ段階ではチェックしません。なるべく早いうちに、家庭で気軽に報告書を見ながら、生徒と保護者が将来の進路について話しあう機会をもつてくれたら」と菅先生は語る。

同校は進路多様校。多くの情報を整理して的確に生徒に発信しきれないことが、生徒の安易な進路選択につながっていたかもしれないという反省点もあるという。「三総魂」では、高校の教員向けに大学や専門学校が開催する説明会からも有益な情報があれば生徒に発信すること

にしている。なお、さまざまな書類は、PDFで保存すれば端末を選ばず見ることができ、色、文字の大きさ、アンダーラインなど、手書きした人の工夫もそのまま残る。情報を保存するにも、スキャナで読み込むだけなので簡単に導入のハードルも低い。

ちなみに菅先生は、教員間のグループウェアも整備した。連絡事項はフォーマット内に書き込むことで、職員朝礼の時間が短縮。不在の教員への連絡漏れもなくなった。教員間での情報のやりとりに漏れがないということは、生徒も平等に情報を受け取ることに繋がる。会議時間等の

短縮により、教員と生徒のリアルコミュニケーションの時間は増える。

「校内の情報網を整備することで、1年生から様々な情報を当たり前に活用できるリテラシーを身につけさせたい。また、私たちからも校外に情報を発信し、地域の他の学校や企業からも情報を受け取り、積極的にコミュニケーションを高めることで、地域社会に貢献できる人材を育てていきたいと考えています」（菅先生）

進路指導部 菅 淳司先生



School Data

2006年創立／普通科・生物環境科・メディア科学科 生徒数442人（男子197人・女子245人）／進路状況（2014年度実績） 大学54人、短大14人、専各71人、就職68人、その他0人

「三総魂」の使い方

ダウンロード可

三総魂の使い方

三総魂の使い方

三総魂の使い方

「三総魂」トップページ

大分県立三重総合高等学校

進路指導室「三総魂」

三総魂